

2018年12月20日

表皮水疱症を対象疾患とした Muse 細胞製品の探索的臨床試験開始について

株式会社生命科学インスティテュート

株式会社生命科学インスティテュート(本社:東京都千代田区、社長:木曾 誠一、以下「当社」)は、Muse 細胞を用いた再生医療製品の研究開発を進めて参りましたが、このたび、表皮水疱症を対象疾患として、Muse 細胞製品「CL2020」の探索的臨床試験を国内で開始することとなりましたのでお知らせいたします。

Muse 細胞 (Multilineage-differentiating Stress Enduring cell) は、2010 年に東北大学の出澤真理教授らのグループにより発見された、ヒトの多様な細胞に分化する能力を有する新たなタイプの多能性幹細胞です。もともと生体内の間葉系組織内に存在する自然の幹細胞であり、腫瘍化の懸念が低いことに加え、目的とする細胞に分化誘導する必要がなく、そのまま静脈内に投与するだけで傷害部位に集積し、そこに生着して組織を修復するという特長を有しています。

これまで実施した皮膚疾患モデルを用いた動物実験では、CL2020 の静脈内投与により、皮膚罹患面積の縮小効果を発揮することが確認されています。

表皮水疱症は、表皮～基底膜～真皮の接着を担っている接着構造分子が生まれつき少ないか消失しているため、日常生活で皮膚に加わる力に耐えることができずに皮膚や粘膜が擦れることにより水ぶくれ(水疱)や潰瘍が生じてしまう病気です。国の指定難病に登録されており、日本国内には、約 500～1000 人の患者さんがおられると予想されていますが、現段階で有効な治療法はなく、新しい治療法の開発が望まれています。皮膚などの潰瘍形成の改善や潰瘍拡大を抑制する可能性のある CL2020 は、表皮水疱症治療の新たな選択肢になると考えています。

【探索的臨床試験の概要】

- 対象疾患 : 表皮水疱症
目的 : 表皮水疱症患者を対象に、CL2020 を静脈内投与した際の安全性、忍容性及び有効性について検討する。

今後も、当社は Muse 細胞をはじめとして次世代に向けたヘルスケア事業を展開し、さまざまなリソースを活用して KAITEKI 社会の実現へ向けて事業展開してまいります。

以上

[本件に関するお問い合わせ先]

株式会社生命科学インスティテュート 総務・法務部 広報担当 TEL 03-6896-8743
株式会社三菱ケミカルホールディングス 広報・IR 室 TEL 03-6748-7140